

「アーバングループの勤務哲学」

アーバングループは、グループ全社員の勤務状態を宮本武蔵の「五輪書」に記述されている様な勤務状態にすることを旨とする。

宮本武蔵の「五輪書」

もっとも上手の人のすることは、ゆるゆると見えながら、間の抜けないものである。何事も熟練した者のすることは、忙しげに見えないものである。せせこましく、忙しげに見えるようでは修行が足りぬ。最上の人には「ゆるゆる」としながらも、間合いを計り大切な瞬間を外さない。

間合いを計り大切な瞬間を外さないためには、「四耐四不」を貫くこと！！

「四耐」

- 1) 孤立することに耐える
(孤独に耐えきれずに、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 2) 面倒くさいことに耐える
(煩わしさに耐えきれずに、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 3) 辛いことに耐える
(苦勞に耐えきれずに、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 4) バカにされることに耐える
(相手にされないことに耐えきれずに、大切な瞬間を外すようなことはするな)

「四不」

- 1) 下手なプライドは持つな
(感情的になって、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 2) Win-Win の本質的な解決以外は目指すな
(争い事を起こして、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 3) 自分勝手になるな
(調子に乗って、大切な瞬間を外すようなことはするな)
- 4) 雑音に惑わされるな
(他人のいいなりになって、大切な瞬間を外すようなことはするな)